

温泉の成分、利用形態、禁忌症、適応症及び入浴上の注意

成 分

- 1 源泉名 雪野泉  
 2 泉質名 単純弱放射能冷鉱泉  
 3 温 度 14.5℃  
 4 温泉の成分  
 性 状 無色澄明、無味無臭  
 p H 値 6.54  
 ラ ド ン  $37.9 \times 10^{-10}$  (Ci/kg)  
 蒸発残留物 0.050 (g/kg) (110℃)  
 温泉1キログラム中の含有成分及び分量 (mg)

陽 イ オ ン		陰 イ オ ン	
ナトリウムイオン	6.48	フッ素イオン	0.04
カリウムイオン	0.98	塩素イオン	5.01
マグネシウムイオン	0.39	炭酸水素イオン	18.72
カルシウムイオン	3.84	炭酸イオン	0.00
ストロンチウムイオン	0.00	硫酸イオン	4.53
第一鉄イオン	0.01	水硫イオン	0.00
マンガンイオン	0.00	水酸イオン	0.00
アルミニウムイオン	0.01	リン酸イオン	0.11
亜鉛イオン	0.01		
水素イオン	0.00		
リチウムイオン	0.00		

遊離成分

非 解 離 成 分		溶 存 ガ ス 成 分	
メタケイ酸	25.73	遊離二酸化炭素	13.42
メタホウ酸	0.24	遊離硫化水素	0.00
溶存物質 (ガス性のものを除く)		0.080 g/kg	
成分総計		0.066 g/kg	
その他の微量成分 (mg/kg)			
総ヒ素	0.000	総水銀	0.000
銅	0.002	カドミウム	0.000
鉛	0.000		

- 5 温泉の分析年月日及び登録分析機関の名称 (登録番号)  
 平成18年10月12日  
 山口県環境保健研究センター (山口薬務第1号)

山口市島地温泉ふれあいセンター

利 用 形 態

- 1 源泉温度が低いため加温しています。  
 2 衛生管理のため塩素系薬剤を使用しています。

禁忌症、適応症及び入浴上の注意

- 1 温泉の一般的禁忌症 (浴用)

急性疾患 (特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中 (特に初期と末期)

- 2 療養泉の一般的適応症 (浴用)

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、打ち身、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進

- 3 泉質別適応症 (浴用)

痛風、動脈硬化症、高血圧症、慢性胆嚢炎、胆石症、慢性皮膚炎、慢性婦人病

- 4 浴用上の注意事項

- (1) 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日当たり1回程度とすること。その後は1日当たり2回ないし3回までとすること。  
 (2) 温泉療養のための必要期間は、およそ2ないし3週間を適当とすること。  
 (3) 温泉療養開始後、およそ3日ないし1週間後に湯あたり (湯さわりの湯あたり又は湯反応) が現れることがある。「湯あたり」の間は、入浴回数を減じ又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。  
 (4) 以上のほか、入浴には次の諸点に注意すること。  
 ア 入浴時間は、入浴温度により異なるが、始めは3分ないし10分程度とし、慣れるに従って延長してもよい。  
 イ 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。  
 ウ 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない。(湯ただれを起こしやすい人は、逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分を拭き取るのがよい。)  
 エ 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。  
 オ 次の疾患については、原則として高温浴 (42℃以上) を禁忌とする。  
 a 高度の動脈硬化症 b 高血圧症 c 心臓病  
 カ 熱い温泉に急に入ると、目まい等を起こすことがあるので十分注意をする。  
 キ 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。  
 ク 飲酒しての入浴は特に注意する。

- 5 決定年月日 平成23年3月24日

- 6 決定者 山 口 県



山口市島地温泉ふれあいセンター